

はじめての 万葉集

日本に現存する
最古の和歌集「万葉集」を
わかりやすく紹介します

vol. 141

はるやなぎ
春楊

かづらき
葛城山に

たつ雲の

立ちても坐ても

妹をしそ思ふ

柿本朝臣人麻呂之歌集(巻十一・二四五三歌)

葛城山の雲に寄せる恋

助詞や助動詞にあたる字をほとんど表記しない歌を「略体歌」と呼びます。反対に、そういう字を表記する歌を「非略体歌」と呼びます。

本歌は、寄物陳思という部立に入れられている一首です。寄物陳思とは、自然の景色や物に自分の気持ちを重ねて表現する方法です。

「柿本朝臣人麻呂之歌集」は『万葉集』を代表する歌人・柿本人麻呂の歌を中心にはまとめられている歌集ですが、現存していません。そのためその実態はよくわかりません。『万葉集』編纂の資料として用いられ、巻によつては巻頭に本歌集の歌がまとめて置かれていることから、古い時代の歌々として位置づけられているようです。なお、平安時代に成立した『人麿集』という書物もありますが、それとは全く別のものである点は注意が必要です。

本歌はその表記が特徴的です。『万葉集』の歌が漢字ばかりで書かれていることはよく知られていますが、本歌の原文は「春楊葛山發雲立座妹念」と、わずか十文字の漢字で表記されているのです。このように

さて、本歌の第一句「春楊」は、「葛城山」の枕詞となっています。柳を「かづら」(髪飾り)にするところから、第二句の「葛城山」につながります。

葛城山は現在の奈良県と大阪府の県境に連なる山々の総称で、金剛山を主峰とします。『万葉集』に度々詠まれ、前回(1月号)紹介した二上山も葛城山に含まれます。歌はそうした葛城山に立つ雲を話題にしています。この第二句までは第四句「立ちても坐ても」を引き出す序詞となっています。山に雲が「立つ」と人と人が「立つ」ことをかけているのです。

(本文 万葉文化館 榎戸 涉吾)

かづら
春の楊を纏にする葛城山

に湧き立つ雲のように、立つても
座つても妻をこそ思うよ。

万葉文化館 イベント情報

◆特別展

「隙あらば猫 町田尚子絵本原画展」

2月21日(土)～5月6日(振休)

怖さとユーモア、美しさと不思議さをあわせ
もつた画風で緻密な描写が魅力の絵本作家・
町田尚子さんの絵本原画や絵画などを展示し
ます。万葉文化館にちなんだ作品もご覧いた
だける展覧会です。

※小・中学生、国内の高
校生、18歳未満の人は
無料。その他割引な
ど、詳しくは当館HP
をご覧ください。



『ねこはるすばん』原画
ほるぶ出版 2020年

◆万葉古代学講座 無料

2月28日(土)14時～15時30分

「万葉集」の動物

【講師】榎戸 涉吾(万葉文化館研究員)

【定員】150人(先着・申込不要)

※オンライン視聴は要申込(定員なし)

◆万葉集をよむ 無料

2月25日(水)14時～15時30分

「冬の雜歌(2)」

(巻8・1645～1654番歌)

【講師】中本 和(万葉文化館主任研究員)

【定員】150人(先着・申込不要)

※オンライン視聴は要申込

(定員なし)

◆にぎわいフェスタ万葉冬

2月21日(土)～3月8日(日)まで

ひなまつり特別展示

開催中～3月8日(日)まで
エントランス
で展示
※詳しくは当館
HPをご覧く
ださい。



奈良県立 万葉文化館
0744-54-1850
www.manyo.jp

